

I R (統合型リゾート)に関する基本的な考え方

平成31年4月
北海道

《目 次》

1. I R 導入の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1～6
 2. 北海道 I R の基本コンセプト・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7～15
 3. 優先すべき候補地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 16～20
 4. 社会的影響対策の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 21～25
 5. I R に関する基本的な考え方（まとめ）・・・・・・ P. 26
- （参考）「基本的な考え方」（たたき台）に対する道民意見・・ P. 27～29

1. IR導入の意義 (1) IR (統合型リゾート) とは

IR (統合型リゾート : Integrated Resort) とは

- 会議場やホテル、レストラン、ショッピングモール、テーマパークなど、子どもから大人まで様々な人が楽しむことのできる集客施設と、それらを収益面で支えるカジノ施設からなる複合型の観光施設群
- 民間事業者の資金・ノウハウにより一体的に整備・運営

《シンガポールに設置されているIR (リゾートワールド・セントーサ) の概要》

MICE施設

国際会議などの会場となるクオリティの高い**コンベンションホール**や**イベントホール**

*最大の会議場は6,500人収容

宿泊施設

様々なブランドやコンセプトの高級な**大規模ホテル**、**ヴィラ** (別荘風の高級施設)

*ホテルの客室数は合計で1,600室

カジノ

厳しい規制と管理のもとで運営。(シンガポールの場合、**カジノ面積はIR施設全体の約3%**)



エンターテインメント施設

ユニバーサルスタジオ・シンガポール、海の動物とふれ合える**ウォーターパーク**、**劇場**、**博物館**、**水族館**

商業施設

家族連れや富裕層など、多様な客層が楽しむことのできる**ショッピングモール**や**レストラン**

1. IR導入の意義 (2) 日本型IRのめざすもの

- 日本型IRは、これまでにないスケールやクオリティを兼ね備えた多様な集客・送客機能を一体的に整備し、国際競争力の高い滞在型観光の実現をめざすもの。
- シンガポールなど、世界のIRの成功事例を参考に制度設計。

《日本型IRの基本モデル》



⇒ これまでにないスケールとクオリティをもつ集客施設を民間の資金とノウハウで一体的に整備

⇒ 富裕層の滞在からビジネス・家族旅行まで、幅広い観光ニーズに対応

- 我が国を代表する規模となるMICE施設
- 世界水準の客室面積やスイートルームの割合を持つ宿泊施設等

⇒ カジノが合法化されている世界127カ国（うちOECD加盟国30カ国）の中でも、最高水準の規制を設け、安心を確保

- IRは全国で最大3カ所の設置に限定
- IRに設置するカジノ面積は、IR施設全体の3%以内
- 特に、日本人の利用に対しては、
 - ✓ 1日あたり6,000円の入場料を設定
 - ✓ 7日間で3回、連続する28日間で10回以内
 - ✓ マイナンバーカード等による本人確認を義務づけ

1. I R導入の意義 (3) I Rの導入効果 ① 経済効果などの試算

- 本道にI Rを設置した場合、I Rの訪問者数は最大で年間860万人、施設全体の売上高は年間1,560億円、建設投資を除く経済効果は年間2,000億円と見込まれるなど、本道経済の活性化に大きく寄与することが期待される。
- カジノ納付金等により、最大で年234億円の税収が見込まれ、継続的な安定財源の確保により、公的サービスの向上が期待される。

《苫小牧市の候補地にI Rを設置した場合》

◆ 経済効果 (H29需要予測調査による)

- 道内にI Rを整備した場合、
 - I Rへの訪問者数 年860万人
 - I R全体の売上高 年約1,560億円
- 需要予測を前提とした経済波及効果 年約2,000億円 (建設投資を除く)
- 就業誘発人数 21,000人
- 前提条件に不確定要素が多いものの、I Rの導入は、道内経済に大きなインパクトをもたらすことが期待される。

◆ 税収効果 (H29需要予測調査に基づく試算)

- 需要予測に基づくカジノ収益等に伴う納付金等の額は、年234億円
 - 日本人を対象とした入場料6,000円のうち、3,000円が都道府県に納付
 - カジノ納付金 (粗収益の30%) のうち、半分 (粗収益の15%) が都道府県に納付

⇒ 今後、I Rの機能、施設、規模などのコンセプトを明確にした上で、より精緻な需要予測や建設投資も含めた経済波及効果を把握することが重要

1. IR導入の意義 (3) IRの導入効果 ② 北海道経済へのインパクト

北海道経済の構造的課題

- ・全国に比較して低調な民間投資
道（国）内総生産に占める
民間総固定資本形成の割合※
道内 11.4%（国内 18.3%）
- ・公的需要への依存構造
道内需要に占める公的需要の割合
道内 30.1%（国内 24.9%）
- ・移入超過が続く域際収支
財貨・サービスの移出入（純）
2兆3,000億円の移入超過
（出典）北海道「平成27年度道民経済計算」
- ・若年層の道外への転出超過
20歳～29歳の社会増減（平成30年）
-6,193人（全体：-7,953人）
（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※民間総固定資本形成とは
民間部門による住宅投資、企業設備投資の総計。

IRの導入を契機に



自立型の経済構造への転換を加速

1. IR導入の意義 (3) IRの導入効果 ③ 観光面での効果

① 国内外からの観光客の受入れ拡大

現 状	課 題	IR導入で期待される効果
インバウンドは堅調に増加しているが、国内客は横ばい状況	<ul style="list-style-type: none"> 海外・国内における旅行市場の新規開拓・拡大 国内における観光地との競争力強化 等 	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表し、北海道の象徴となる新たな観光資源（キラコンテンツ）の創出により観光需要を飛躍的に拡大

② 観光消費額の拡大

現 状	課 題	IR導入で期待される効果
消費額単価及び消費額共にインバウンドは堅調に増加する一方、国内客は横ばい状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光商品の付加価値向上や旅行日数の増加等による消費の拡大 消費単価の高いインバウンドやビジネス層の誘客促進 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるIR施設の利用やIRを拠点とした滞在・周遊型観光の促進により、一人当たりの消費額を拡大 国際会議の誘致等により、消費単価の高いインバウンドやビジネス層の来道促進 等

③ 地域偏在の解消

現 状	課 題	IR導入で期待される効果
札幌を中心とした道央圏に観光需要が集中し、他地域との格差は拡大傾向	<ul style="list-style-type: none"> 道央圏から他地域への送客(誘導)機能の拡充 道内各地域における魅力ある観光地づくり 等 	<ul style="list-style-type: none"> IRを周遊観光の拠点として位置づけ、国内外から本道への集客と道内・国内各地への送客を一体的に推進

④ 季節格差の解消

現 状	課 題	IR導入で期待される効果
国内客は夏季、インバウンドは冬季に集中し、春季、秋季の観光客は低調	<ul style="list-style-type: none"> 閑散期（春・秋季）の観光需要を底上げ 観光産業の通年安定化 等 	<ul style="list-style-type: none"> 季節変動の少ないMICE施設や四季の魅力を生かしたエンターテインメント施設の整備などにより年間を通じた観光需要を創出

《北海道観光のくにづくり行動計画に掲げる目標値》

項目	現状	目標(2020年(H32))
観光入込客数(実人数) うち外国人客	(H29) 5,610万人 279万人	6,000万人 500万人
観光1人当たり消費額 道外客 外国人客	(H27) 73,132円 178,102円	76,000円 200,000円
観光総消費額 うち外国人客	(H27) 1兆4,298億円 3,705億円	2兆1,544億円 1兆円

202X年 北海道IRの整備

北海道観光の更なるレベルアップ

我が国が目指す観光先進国の実現に大きく貢献

〔訪日外国人旅行客数 2020年 4,000万人
2030年 6,000万人〕

1. IR導入の意義 (3) IRの導入効果 ④ 主要プロジェクトとの連携による波及効果

- 道内において展開される主要プロジェクトとIRとの連携を深めることにより、プロジェクト間の相乗効果はもとより、全道への大きな波及効果が期待される。

- 北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致 (2030年)



- 日本ハムファイターズボールパーク構想 (2023年～)



- 広域周遊観光ルート (2015年、16年に認定済)



- 北海道新幹線札幌延伸 (2030年度末まで)



- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録 (早期の実現に向け取組を推進)



- 民族共生象徴空間 (愛称 ウポポイ) (2020年4月)



- 道内7空港一括民間委託 (2020年1月～)



2. 北海道 I R の基本コンセプト (1) 北海道に相応しい I R の機能・施設

- 日本の他地域にはない北海道の優位性を存分に活かした「アジア・オンリーワンの統合型リゾート」をめざし、その理念に相応しい中核施設群の一体的整備を図る。
- 最大の顧客ターゲットである海外富裕層のニーズに応え、かつ、国内外の多様な客層にとって、何度でも訪れたい魅力ある空間を創出する。
- 国土の22%を占める北海道の広域性に着目し、道内の観光地の結びつきを高め、I R を核とした質の高い広域周遊観光を促進する。

《北海道 I R に相応しい機能・施設 (イメージ) 》

世界が注目する「北海道価値」



アジア随一の
ウィンター・リゾート



明瞭な四季と
美しく雄大な自然



独自の歴史・文化



良質で豊富な食

中核施設	M I C E 施設 (1号・2号施設)	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設やエンターテイメント施設等との一体的整備を図り、これまでにないオールインワンの高付加価値型サービスを提供 M・I・C・Eそれぞれの分野に応じた多機能型の施設整備を指向 北海道全体のM I C E 誘致戦略の中核となる施設と位置づけ
	魅力増進施設 (3号施設)	<ul style="list-style-type: none"> 北日本をはじめ全国の魅力を凝縮して発信するとともに、送客機能と連携し、オプションツアーを提供 北海道をまるごと体感できるクオリティの高い機能・施設を常設
	送客施設 (4号施設)	<ul style="list-style-type: none"> I R への訪問客を道内外各地の観光地に送り込む機能をハード・ソフトの両面から整備 利便性の高い二次交通システムを整備 I R を拠点とした周遊型旅行をサポートするコンシェルジュ機能をワンストップで提供
	宿泊施設 (5号施設)	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表するハイグレードのホテルを中核に、利用者の幅広いニーズに対応できるバラエティに富んだ宿泊施設を整備 北海道らしい自然指向の滞在生活が体験できる施設を併設 M I C E 施設との一体性、連動性を重視 ユニバーサルデザインの導入
	その他施設 (6号施設)	<ul style="list-style-type: none"> 自然を活かした上質な癒やしの空間を整備 冬季スポーツなど北海道らしさを取り入れたエンターテイメントの創出 ナイトライフ・夜の観光の充実

2. 北海道 I R の基本コンセプト (2) 中核施設の要件 ①

I R 整備法及び施行令 (平成31年4月1日施行) における中核施設の定義・基準

		施設の機能	定義・基準等
中核施設 (必須)	1号施設	国際会議場施設	(MICE施設) ・ 最大国際会議室の収容人数がおおむね1,000人以上、かつ、国際会議場全体の収容人員の合計が最大国際会議室の収容人数の2倍以上であること。 ・ 国際会議場施設、展示等施設ともに「一般的な規模」、「大規模」、「極めて大規模」の3類型に分類される。 (施設類型の詳細は9ページ)
	2号施設	展示等施設	
	3号施設	魅力増進施設	・ 我が国の観光の魅力の増進に資する劇場、演芸場、音楽堂、映画館、博物館、美術館、レストランその他の施設。 ・ 以下の①、②のいずれかを選択した上で、③の要件を満たす機能を有するもの。 ①多様なコンテンツを内容に応じた発信手法に絞った上で、魅力を幅広く伝える ②コンテンツを絞った上で、多様な発信手法を活用し、魅力をより深く伝える ③上記①②に共通して、誘客効果を維持・向上させる仕組み
	4号施設	送客施設	・ 観光客を全国各地に送り出すため、観光情報等をV R等の臨場感にあふれた手法で発信するとともに、旅行計画の提案や交通・宿泊等の手配をワンストップで提供。 ・ 以下の①～④を全て満たすこと。 ①ショーケース機能、②コンシェルジュ機能、 ③多言語対応機能、④十分な施設規模
	5号施設	宿泊施設	・ 全ての客室の床面積の合計が、おおむね10万㎡以上であること。 (床面積等の詳細は9ページ)
任意	6号施設	その他施設	・ その他国内外からの観光旅客の来訪及び滞在の促進に寄与する施設 (例・遊園地やショッピングモール、レストランなど)。 ・ 設置の有無や内容は任意。

2. 北海道 I R の基本コンセプト (2) 中核施設の要件 ②

1 MICE施設 (1号・2号施設) の基準

- 以下のカテゴリのうち、いずれかを満たすこと。 ※会議場施設全体の収容人数は、最大国際会議室の2倍以上であること。

カテゴリ	会議場施設※	展示等施設
カテゴリ①	「一般的な規模の国際会議」が開催可能 (最大の会議室の収容人数 1,000人～3,000人)	「極めて大規模な展示会」が開催可能 (有効展示等面積 12万㎡以上)
カテゴリ②	「大規模な国際会議」が開催可能 (最大の会議室の収容人数 3,000人～6,000人)	「大規模な展示会」が開催可能 (有効展示等面積 6万㎡以上)
カテゴリ③	「極めて大規模な国際会議」が開催可能 (最大の会議室の収容人数 6,000人以上)	「一般的な規模の展示会」が開催可能 (有効展示等面積 2万㎡以上)

(参考)

国内の主な会議場施設の最大の会議室の収容人数

- ・東京国際フォーラム 5,000人
- ・札幌コンベンションセンター 2,500人

国内の主な展示等施設の有効展示等面積

- ・東京ビッグサイト 9万5,000㎡
- ・幕張メッセ 7万㎡

2 宿泊施設 (5号施設) の基準

- 全ての客室の床面積の合計が、おおむね10万㎡以上であること。
- 以下の①～③が国内外の宿泊施設の実情を踏まえ適切なものであること。
 - ①最小の客室の床面積、②最小のスイートルームの床面積、③客室の総数に占めるスイートルームの割合

(参考)		世界的なブランドの宿泊施設	諸外国のIRの宿泊施設	日本を代表する宿泊施設	日本の大規模な宿泊施設
面最積小客室 (㎡)	スイートルームの最小客室面積の平均	67.0	65.6	58.7	64.1
	最小客室面積の平均	39.7	40.0	29.0	17.7
客室数	総客室数の平均	273	2,495	930	1,554
	スイートルーム数の平均	35	617	47	28
	スイートルーム割合の平均	14.8	19.2	5.3	2.3

「特定複合観光施設区域整備推進会議取りまとめ～主な政令事項に係る基本的な考え方～(案)」(平成30年12月)より道加工

中核施設の要件に関する道の考え方

- 政令に定める要件を十分踏まえながら、ソフト・ハードの両面で「世界品質」と「北海道らしさ」を追求し、国際競争力を向上
- MICE施設については、国際会議や展示会等の誘致戦略を明確にした上で、最適なカテゴリを選択

2. 北海道 I R の基本コンセプト (3) M I C E 施設 (1号・2号施設) ①

- M I C E 施設 (国際会議場、展示場等) については、国が求める「我が国を代表する規模」等の要件を満たすことを前提に、宿泊施設やエンターテイメント施設等との一体的整備を図り、これまでにないオールインワンの高付加価値型サービスを提供。
- M・I・C・E それぞれの分野に応じた多機能型の施設整備を指向。
- 札幌市に建設予定の国際会議場をはじめ、道内の M I C E 関連施設との連携・機能分担を基本に、北海道全体の M I C E 誘致戦略の中核となる施設と位置づけ。

《ターゲットに応じた M I C E 機能・施設 (イメージ) 》

対象分野	ターゲット	求められる機能・施設	
Meeting	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内及びアジア企業が主催する各種会議・研修等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多機能で汎用性の高い会議室 ● 北海道らしいユニークベニュー ● 最先端の A I、I o T 技術の活用 	多様な付加価値を提供できるユーザーオリエンテッドな機能・施設を一体的に整備 ・宿泊、バンケット機能 ・オプションツアー ・アミューズメント機能 etc.
Incentive (Travel)	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内及びアジア企業のインセンティブツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者の規模やグレードに応じた宿泊施設、宴会場 	
Convention	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府系国際会議 ● 国内外の主要な学会、全国大会等 (医学系、自然科学系) 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの北海道にはない規模のメインホール ● 多機能で汎用性の高い相当数の会議室 ● 最先端の A I、I o T 技術の活用 	
Exhibition/ Event	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネス系大規模展示会・見本市 ● スポーツ、音楽系フェスティバル等のイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内有数の展示スペース ● 多様なイベント開催に活用できる屋外施設 	

2. 北海道 I R の基本コンセプト (3) M I C E 施設 (1号・2号施設) ②

《 I R を核とした北海道 M I C E 誘致の展開イメージ》

【基本的視点】 市場拡大が見込まれる分野、地域をターゲットに、戦略的な誘致活動をオール北海道で実施

《 国 内 》

国内企業主催の
インセンティブツアー
会議、研修

政府系国際会議
大規模イベント（学術会議・見本市・展示会・音楽祭 等）

《 海 外 》

アジア企業主催の
インセンティブツアー
研修旅行

これまでにない大規模 M I C E の誘致、顧客ニーズに応じたきめ細かいサービスなど、市場競争力を飛躍的に強化

札幌

(グローバル M I C E 都市)

札幌コンベンションセンター
新 M I C E 施設(2025開業予定)
各種ホール、ホテル 等

I R

《 M I C E 機能》
大規模コンベンションホール
多機能型会議室
ユニークベニュー
国内有数の展示スペース
ハイグレードなホテル

道内各都市

函館アリーナ
旭川大雪アリーナ
とかちプラザ
北見芸術文化ホール
釧路市観光国際交流センター 等

北海道 M I C E 誘致推進協議会

【 現 行 】 北海道及び道内各都市（札幌、旭川、釧路、函館、北見、帯広、登別）の行政・団体に構成
M I C E 誘致に向けた情報収集、プロモーション活動等を一体的に実施

【 I R 導入後 】 I R 立地自治体、I R 事業者を構成員に加え、より強力な誘致活動を展開